



RESOLUTION No. 42) PALESTINIAN SOLIDARITY: SUPPORT FOR THE BOYCOTT DISINVESTMENT AND SANCTIONS CAMPAIGN (BDS)

第42号決議) パレスチナの連帯：不買・脱資・制裁（BDS）キャンペーンの支持

第29回国際公務労連（PSI）世界大会
2012年11月27日－30日、南アフリカ・ダーバン

以下に留意する。

- a) イスラエルが、衝突軽減を目的とした国連決議を無視または侮辱し続け、武力と土地の占領によって現地のパレスチナ住民の疎外を続けていること。
- b) イスラエルが、何度も悪びれずに国際条約に違反しているにもかかわらず、アメリカから武器と開発援助の提供を受け続けていること。
- c) イスラエルがアメリカから兵器と政治的支援を受けていることから、世界大会は、危機が終わらないのはイスラエルとパレスチナ双方に同等の責任があるとの見解を拒否すること。ならびに、イスラエルの攻撃的で敵対的な性格と占領が、平和的解決を阻む主要な要因であること。
- d) イスラエル国内にも、紛争の武力的解決をこれ以上望まない人々による反対が拡大しており、パレスチナ社会でも、少数派行動を拒否し、大規模な民衆キャンペーンを支持する人々が存在すること。
- e) 独立した民主的労働組合主義を支持し、戦う労働者を支援するうえでPSI地域組織が勇氣ある重大な役割を果たしたこと。
- f) 世界各地において、イスラエルがアパルトヘイト国家であるとの理解が主流となりつつあること。アパルトヘイト国家という特徴と、抑圧される側が帯びる意味合いが理解され、事実を深刻に考察せずにアパルトヘイトを想定しない南アフリカでもこの傾向が主流であること。
- g) パレスチナにおけるBDSキャンペーンが始動し、過去2年間で労働組合を含むさまざまな組織から世界的な支援が広く得られたこと。

さらに、世界大会は以下に留意する。：

- h) BDSキャンペーンの主な目的の一つが、イスラエルがパレスチナ人に対して行い、アパルトヘイト国家としての不名誉を与えられた体系的差別に注意を促すことであること。
- i) イスラエルとパレスチナの人々についていかなる解決策を講じようとも、パレスチナ人の疎外など、パレスチナ人の差別と操作が広く行われる限り、成功の見込みは低いということ
- j) 民主的かつ包括的、無宗派的アプローチだけが、紛争に対して長期的な平和をもたらすことができること。そしてこのことは、法律、軍部、政治、社会、経済、政治的障壁などすべての抑圧的な規定の解体を条件とすること。最低でも以下を伴わなければならない。：
 - イスラエルのパレスチナ市民の基本的権利を全面的な平等をもって認識すること
 - パレスチナ人難民が祖国と財産を取り戻す権利を尊重、保護、奨励すること
 - イスラエルの違法入植とガザ封鎖を即時中止すること

したがって、世界大会は以下を決議する。：

1. BDSキャンペーンを支持し、イスラエル・アパルトヘイト週間を毎年開催するなど、関連活動を支援すること。
2. この点において、自治体および政府の省庁すべてをイスラエルによるアパルトヘイトのない地帯とするキャンペーンなど、PSI加盟組合の活動を共有すること。
3. PSI地域事務所（北アフリカおよび中東）、およびイスラエルとパレスチナを含む同地域全体で、代表性を確保した独立した民主的組合を構築する地域事務所の取り組みに、最大限の支援を続けること。

4. 各国政府すべてに対し、イスラエル国家の敵対的性格を認識し、イスラエルがアパルトヘイトのためのインフラを解体し、民主化と国連決議の順守を行う用意ができるまで、同国の隔離を訴えること。
5. 労働組合内部、および政府のフォーラムにおいて、アメリカと他の同盟国によるイスラエルへの武器提供を止めさせる訴えを拡大すること。
6. 反ユダヤ主義、イスラム嫌悪、その他宗派間の感情など、あらゆる形態の差別に引き続き反対し、同地域の危機に対して宗教に関係のない寛容なアプローチをとること。

行動プログラムおよび規約を含む大会決議[Congress resolutions](#) を参照のこと